

12. 科学と美術の交差点

科学者のヘンリー・デフィリップスは美術には全く興味がなかった。ところが、ある時から、美術に夢中になった。どうして、彼は急に美術が好きになったのだろうか。科学と美術には意外な関係があった・・・。

アメリカの科学者、ヘンリー・デフィリップスは、美術が専門の妻と新婚旅行でフランスとイタリアに行った。妻はデフィリップスをたくさんの美術館に連れて行ったが、美術館は彼にとって非常に退屈な場所だった。ところが、そんな彼がある時から美術に強い興味を持つようになった。

1980 年代に、デフィリップスは、「この絵の絵の具の化学成分を調べてほしい」と友人に頼まれた。驚いたことに、それはファン・ゴッホの絵だった。その絵は、コネチカット州のワーズワース・アセニウム美術館のもので、友人はその美術館の保存管理の責任者だった。その絵が偽物だと言う人がいるので、偽物かどうかを調べなくてはならなかったのだ。

デフィリップスは、その絵の絵の具の粉を受け取った。その量は非常に少なかった。300 万ドルもする作品なので、絵の具はできるだけ少なく削らなければならないのだ。検査の結果、絵の具はファン・ゴッホが使ったものと同じ種類だった。友人はその結果に満足した。

デフィリップスは、それまでの 25 年間、イカなどの生き物のタンパク質を研究してきた。しかし、ゴッホの絵の具を調べてから、彼は、科学知識が美術に役立つことを知って、美術と関わるのが面白くなった。それからは、絵の修復を助けることが、彼の仕事の中心になった。使用されている絵の具の化学成分が分かれば、絵を適当な方法で修復することができるからである。

デフィリップスは、絵が本物か偽物かを判断することを助ける仕事もしている。アセニウム美術館がフランスの画家、ジェームズ・テイソの絵を買おうとした時のことである。美術館から頼まれて、彼がその絵の絵の具の化学成分を調べると、非常に少ない

量の二酸化チタンが入っていた。そこで、彼は美術館にその絵を買うのをやめさせた。1920 年代まで、絵の具にチタンは使われていなかった。そして、テイソが死んだのは 1902 年だったのである。

偽物の絵に関する仕事は年間 60 億ドルのビジネスで、偽物の絵を描く画家は非常に高い技術を持っている。美術館の全ての絵の約 25%が偽物であり、個人が持っている絵の約 40%が偽物である、とも言われている。

デフィリップスは、コネチカット州のトリニティ・カレッジで 40 年以上、化学を教えたが、後半の 20 年間は、主に絵の保存技術を教えた。その授業、「科学と美術」は、いつも長い順番待ちのリストができるほど人気があった。

デフィリップスは退職した今も、化学専門の学生に絵の保存技術を教えている。学生たちはまず、自分で混ぜた絵の具を使って、検査の方法を学ぶ。次に、すでに化学成分が分かっている、古い絵の具を検査する。その後初めて、化学成分が分からない絵の具について調べるのである。使われている絵の具について知ることが、絵の修復の基本だからだ。

デフィリップスの仕事は「科学と美術の交差点」で行われている。「この仕事は私の人生を変えましたが、実は妻の人生も変えたんですよ」と、彼は語る。「今では私の方が、妻を美術館に連れて行くのですから」

単語リスト：

科学者（かがくしゃ）Nhà khoa học
美術（びじゅつ）Mỹ thuật
化学成分（かがくせいぶん）Thành phần hóa học
粉（こな）Bột, bó bột

削る（けずる）Cắt bớt
タンパク質（たんぱくしつ）Chất đạm
修復する（修復する）Phục chế
化学（かがく）Hóa học
すでに・・・Đã ...rồi